

開催地名：沖縄県宮古島市	
開催日時	令和4年11月2日（水） 14：00 ～ 16：00
開催場所	城辺公民館
語り部	草 貴子 （宮城県仙台市）
参加者	市防災課、地域住民、関係機関 200名
開催経緯	<p>当市は南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されており、1771年に「明和の大津波」によって大きな被害を受けた地域でもある。さらに今年3月には、政府の地震調査委員会より「南西諸島周辺でマグニチュード8程度の地震があり得る」と評価され、地震・津波に対する備えが急務となっている一方で、地域防災を支える自主防災組織の結成数（現在5団体でカバー率4パーセント）が少ないことが課題となっている。今回語り部による講演会で東日本大震災時の経験談や教訓を学ぶことで、自主防災組織の重要性や自助・共助の必要性を再認識したい。</p>
内容	<p>（1）東日本大震災以前の状況</p> <p>震災当時、私は宮城県仙台市泉区市名坂に住んでおり、町内会を運営していた。仙台市泉区は、100万都市仙台の副都心で、人口は21万5千人である。内陸部であったため、東日本大震災において津波の被害は免れた。</p> <p>市名坂東町内会は、仙台市の泉区東部に平成20年に設立された。働き盛りの40代、50代の家庭や単身赴任の家庭が多い中で、女性が中心となって立ち上げた組織である。役員9名は全員女性であること、集会所設立のために銀行ローンを組んだことは、仙台市初の試みだった。地区の指定避難場所である小学校は、町内から2キロほど離れているため、平成22年に完成した集会所は緊急時の避難場所として防災上の観点を強く意識し、オール電化の導入や収納の高さを女性の腰に合わせて、トイレを2箇所設置するなどの工夫を凝らした。</p> <p>（2）震災時の状況と対応</p> <p>3月11日14時46分、近所の電気店で買い物中に地震に見舞われた。立ってられないほどの強い揺れがあり、ガラスの割れる音、人の悲鳴、天井が落ちる中、夢中で外に出た。建物も電柱も倒れそうで、車は上下に動いた。自宅に帰る途中、集会所近くの公園にぞろぞろ人が集まっていた。集会所を開けると、女性や子ども約100人が避難してきた。</p> <p>避難者の大半は町内会に入会していないマンションの住民だったが、4名の役員で話をし、全員受け入れることにした。避難者の中からリーダー・副リーダーを決めて、町内会はサポートする形で運営に入った。約10日間の共同生活では人間の様々な一面を見た。思いがけない嬉しい言葉をかけてくれる人もいる一方、自分の権利ばかり主張する人もいる。集団生活の中で一番怖いのは、些細なことで人の心や築き上げてきた関係性が壊れてしまうことだ。どんな災害よりも、非常時に垣間見る本来の人間性が一番怖いのではないかと感じた。様々な思想や宗教を持った方々との生活も、考えさせられることが多かった。</p>

(3) 震災を通して感じたこと

市名坂小学校区には2万人以上の人々が住んでおり、小学校を拠点とした町内会、連合町内会、市民センター、児童館、民生委員、青年団、PTA、婦人防火クラブ等の20の地域団体がある。こうした組織を取りまとめ、平成25年度に運営委員会が発足した。行政に頼るのではなく、私たち地域住民一人ひとりの声を聞きながら、私は初代事務局長として邁進しているところである。委員会では、市民センターや児童館との施設との情報共有化、救護班、総務班、情報班等の各班の具体的な活動内容の充実化を計り、スムーズな運営を心がけている。そしてまた、地域の顔がよく見えることや気軽に声掛けできる雰囲気づくりを目指し、女性ならではの視点を活かして活動するために女性コーディネーターを設置した。女性コーディネーターは、避難者の悩みや声を聞き出して、対応やアドバイスを行うのが役目であり、女性ならではの細やかな配慮で対応していくことが期待されている。行政にできることは限られているので、避難所の運営などは私たちが考えなければならない。地域防災で大事なことは、自分自身の特性を考えて、オリジナリティのある身の丈に合ったことを実践することだと思う。

東日本大震災は、誰もが経験したことのない1,000年に一度の大災害だと言われている。被災者の方々は、それぞれの役目を、みんなが自分なりに一生懸命に果たした。子供だからとか、男性だからとか、女性だからとかではなく、私の役目、貴方の役目、みんな違ってそれでいいと思う。いつ起こるか分からない自然災害に立ち向かうことは難しいことであるし、さらにコロナ禍の現在、コミュニケーションをとりづらいな環境になっているが、「防災」や「減災」について考え、実践していくことは絶対に必要である。自然災害に対する準備や備えを大切にして、一時、一瞬を悔いのないよう生きていきたいと思う。



開催地より

自主防災組織での語り部の活動について、わかりやすくお話しいただき、自主防災組織の重要性について共有できたと思う。今後は自主防災組織の結成促進と、避難所の設置及び運営訓練についての取り組みを強化していきたい。